

土運びにご協力いただき、ありがとうございました！

風に舞ったり水で流れたりして、自然と畑の土は減っていきます。過去に在った水田を埋め戻したことも関係しているのか、現在、畑は深刻な土不足におちいっています。畑を良い状態に戻すには、30～50立米の土が必要とのことです。 1立米(リューベ) = 1㎡

まずは5立米、学校が購入した黒土を2回に分けて納品してもらい、11月17日に「おやじの会」メンバーと地域みなさんに、11月30日に学校公開に来られた保護者のみなさんに運んでいただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。



今後も土を足していく予定です。また声をかけさせていただきますので、よろしくお願いします。

土づくりをしています

畑にあった大きなビニール袋の中身は、近隣からいただいた落ち葉と「イズミちゃん」。「イズミちゃん」は給食室から出る生ごみや食べ残しで作られた堆肥です。しばらくおいてから、畑にまいて土をかぶせます。堆肥に含まれる微生物が落ち葉を分解し、腐葉土となって良い土壌を作っていきます。地域のボランティアさんが作成したものを、栽培委員の児童のみなさんが、朝の活動時間を使って少しずつ土にまぜてくれました。



それでも 土不足



サツマイモを植える来年度6月までに畑を満す量の土を工面したいと思い、学校運営協議会で検討を重ねています。

学校運営協議会とは、コミュニティ・スクールに設置された、教職員・PTA・地域住民等の代表らによる話し合いの場です。

春の七草、知っていますか？

セリ、ナズナ



ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ



スズナ、スズシロ 「春の七草」

春の七草は、7種類の野草や野菜を指します。スズナはかぶ、スズシロは大根のことで、そのほかは田んぼや畑の周囲によくみられる野草です。国領小の畑や花壇にも生えているので、探してみてください。

新しい植物がいっぱい

花壇に並んでいる1年生の植木鉢にはパンジーが、地域のボランティアさんが用意してくれたプランターにはノースポールやマルチコーレが咲いています。しおれた花を取り除く「花がら摘み」を行うことで、これから咲く花へ栄養を届け、長くきれいに楽しむことができます。畑よりも土が深いため、2年生や栽培委員の大根とかぶは花壇で育てています。

畑には、地域のボランティアさんがカラシナ・菜の花・ムラサキハナナを、栽培委員の児童のみなさんがパセリやキヌサヤを育てています。

しばらくたつと花壇や畑からチューリップの芽がでてくるかも！？

梅の花も咲き始めました。ほかにもいろいろな植物をみることができますよ。



コミュニティ・スクールである国領小学校では「学校と地域による畑・花壇の協働管理」に取り組んでいます。学校運営協議会による全面バックアップを受けて、教職員・児童・保護者・地域のボランティアのみなさんが力を合わせてお世話をしています。

この「国領グリーンレター」では、そんな畑や花壇の様子をお伝えします。

児童のみなさんにはもちろんのこと、保護者の皆様や学校施設を利用する皆様にも関心を持っていただき、植物を通してコミュニティの輪が広がることを期待します。